

長寿と祝う



遠藤マクさんが百歳に



写真上 ご家族に囲まれての記念撮影
写真下 ユリ子さんから花束を受け取るマクさん

折木字上原の遠藤マクさんが5月25日に百歳の誕生日を迎えました。遠藤さんの自宅で賀寿贈呈式が行われ、式には県知事代理として相双保健福祉事務所堀敬一部長、山田基星町長、金沢長社会福祉協議会長、大和田高男老人クラブ連合会長が出席し、県と町より賀寿と記念品、広野町社会福祉協議会と広野町老人クラブ連合会からは記念品がそれぞれ贈られました。また家族からは、次男の妻の高田ユリ子さんの花束贈呈、長男の茂さんの謝辞で長寿を祝いまし

た。その他にも親せき、近所の人たちもお祝いに大勢駆けつけました。大勢のお祝いにマクさんは少し照れているようでした。遠藤マクさんは、明治40年広野町に生まれ、昭和3年に結婚して子ども6人を授かりました。今は普段の生活に一部介助が必要ですが、会話もできますし、耳元で声をかければ聞くこともできます。食事は家族と同じものを摂り、その中でも豆乳と野菜を食べることが長生きの秘訣なのだそうす。いつまでもお元気で！



今年4月14日
天皇陛下に拝謁する前に撮影

浅野林男氏 瑞宝双光章を受賞

浅野林男さん(77歳)が「第八回危険業務従事者叙勲」瑞宝双光章(ずいほうそうこうしよ)を4月29日付けで授章しました。広野町では最初の授章者となります。

人生訓

人生訓が警察官としての服務の宣誓より、「何ものにもとらわれず、何ものをも恐れず、何ものをも憎まず、良心にのみ従い、不偏・不党且つ公平、中正に生きる」という浅野さんは主に、警務、警備畑を歩んだ。学習すること

すべては人の支えがあつてこそ

「警察官は電話一本で現場に駆けつけなくてはなりません。家族にはが楽しいと教養や専門課程を学ぶため、東京警察大学校、福島県警察学校、仙台管区学校での研修を計11回も経験した39年間の警察官生活でした。」

迷惑をかけた分、感謝しています。今回の授章は自分ひとりのものではありません。家族はもちろん県警の上司や部下、たくさんの人たちの支えがあつてこそその授章です。」

最高責任者

退職間際の2月、その当時皇太子だった現在の天皇陛下と現皇太子の浩宮さまのお召し列車警備隊長となり、千九百名もの隊員を動員し最高責任者として福島駅から大宮駅まで新幹線に同乗し警護した浅野さん。「大宮駅で『警護ご苦労さまでした』とお言葉をいただいたときはうれしかった」

一通のはがき

授章後、一通のはがきが浅野さんのもとに届きました。「ハガキの送り主は、私が大久保駐在所(伊達郡飯野町)勤務時代に大変お世話になった現在87歳になる男性でした。その方は駐在所の隣に住んでいて牛を飼っていたので、私の息子が生まれて離乳食を食べるまで

内助の功

林男さんを支えた奥様 和枝(かずえ)さんは、「苦しかったことは忘れてしまいました」と笑顔で話してくれました。



瑞宝章は明治21年に制定されました。勲章のデザインは古代の宝であった宝鏡を中心に桐の花が用いられています。



あさの しげお

広野町出身、広野国民学校高等科卒。海軍志願兵、特別調達庁勤務を経て、昭和25年福島県警に拝命。運転免許二課長、保原署長などを歴任し、昭和63年に防犯警ら部参事官兼外勤課長で退職。元警視正。

※危険業務従事者叙勲とは？

春秋叙勲とは別に、警察官、自衛官など著しく危険性の高い業務に従事した者に対する叙勲。平成15年11月から開始された。